

令和7年度第10回合同教育研究会議議事概要

1 開催日時

令和8年2月12日 13時00分～14時30分

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、高橋副学長兼教育支援本部長兼教学IRセンター長、
亀田副学長兼研究・地域連携本部長、鈴木副学長兼事務局長、
高嶋学生支援本部長、猪股企画・広報本部長、高橋高等教育推進センター長、
工藤看護学部長、中谷社会福祉学部長、橋本ソフトウェア情報学部長、Tee 総合政
策学部長、川崎盛岡短期大学部長、田中宮古短期大学部長、
永富委員（学外委員：東北大学産学連携機構特任教授）、宮本委員（学外委員：岩
手大学人文社会学部教授）

[オブザーバー]

米内事務局次長兼総務室長、中川教育支援室長、松崎学生支援室長、佐藤研究・地
域連携室長、千葉企画・広報室長

[事務局]

高橋副参事兼総務財務課長、青名畑人事給与課長、森主幹、伊藤主任主査

4 会議の概要

議事録確認

前回会議1月14日の議事録（議事概要）については、原案のとおり承認された。

審議事項

なし

協議事項

(1) 「教学IRセンター」の改編による「教学マネジメントセンター」の設置に
ついて

高橋副学長から、資料に基づき説明があった。

委員から、教学マネジメントセンターの体制について、構成員として想定し
ている本部教員とは、教育支援本部のみかとの質問があった。これに対し、ど
の本部教員を構成とするかは今後検討予定である旨の回答があった。

委員から、このセンターには予算がつくかとの質問があり、質問趣旨とし
て、現在IRセンターで実施している授業評価を学部内の教員へ共有している
が、スクリーニングが必要と思われる回答もあるため、予算が付くことでこれ
らの作業を引き続き担えるかを聞きたいとの補足説明があった。これに対し、
次年度予算はほぼ決まっていると思われるため予算措置については今後の話と
なること、IRセンターが担っている業務は正式に所掌事項として定められて
いないものもあったため、分掌を明らかにする必要があったことの説明があっ

た。

委員から、本件は基本的には現状の体制を整える趣旨であると考えているが、今回の体制変更により、学部との関わり方が変わると想定されている事項があれば教えてほしいとの質問があった。これに対し、今後学部からの問い合わせ窓口が整えられたり、教学マネジメントセンターの構成員を通して、所属学部とのチャンネルが設置される等の動きを見込んでいる旨の説明があった。

協議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 「研究環境の整備等に関する戦略（仮称）」について

亀田研究・地域連携本部長から資料に基づき説明があり、学外から研究に関する照会があった際に、データとして提示できるエビデンスをしっかりと確保する趣旨であることの補足説明があった。

協議の結果、原案のとおり承認された。

(3) 「岩手県立大学研究データポリシー」の策定について

亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、学生の卒業論文も対象になるかとの質問があった。これに対し、研究者の中には学生も含まれている旨の回答があり、あわせて、卒論の破棄時期や保存の有無については学部判断を願いたいと考えている旨の補足説明があった。

また委員から、研究成果の公表を行うときには、データに透明性があるかや公開されているかといった事項は必ず問われる点であること、健康に関する研究の場合に審査を受ける、倫理審査委員会へ提出する研究計画とも整合性が取れている必要がある旨の意見があった。

委員から、学生の卒業研究も対象とする場合、倫理審査委員会へ提出する件数が増えることが見込まれるが支障ないかとの確認があった。これに対し、委員会で検討の結果、倫理審査不要と判断され差し戻されるものもあるかもしれないが、全学的な倫理審査委員会で審査すべきと思われる研究計画については提出してほしい旨の回答があった。

委員から、宮古短期大学部では卒業論文データを PDF ファイルに加工し、図書館で保管している旨の情報提供があった。

協議の結果、原案のとおり承認された。

(4) 次世代法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定について

米内事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。

委員から、女性活躍推進や次世代育成支援対策計画は、次々と継ぎ足すようにでき上がった計画や補助金事業優先の計画なども多く、組織内になかなか浸透されないケースが多いが、今回の一般事業主行動計画は一定の事業ではなく、働く全員の底流にある基本姿勢とした点が評価できる旨の意見があった。あわせて、こういった計画は、策定後いかに実施し計画の趣旨に沿って浸透させていくか重要であるため、目標数値についても形式的な指標ではなく、取り組みやすい指標としている点もよい点であるとの意見があった。

また委員から数値目標について、年度ごとに業務の繁閑があるのでそういった事情も踏まえる必要がないかとの質問があった。これに対し、中期計画策定期間など特定の年度に業務が集中することがあるのは認識しているところであ

り、職員配置やDX等によって、業務の山をいかに崩して職員満足度を上げていくかが課題であり、今後も取り組んでいく旨の説明があった。

委員から目標4について、ハラスメント対策は整えられてきたところであるが、事案が生じたときに一緒に働く周囲の教職員も安心できるように、当事者の再教育をどうしていくかという点についても検討してほしい旨の意見があった。

鈴木学長から、学内への計画の普及やハラスメント窓口に関する情報などを教職員が確認しやすいように、関連する情報がまとめられていて手軽に見れるものがあるとより良いと考える旨の意見があった。

協議の結果、原案のとおり承認された。

報告事項（口頭報告）

(1) 「クロスラーニング・ラボ」の設置について

高橋教育支援本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、ラボが設置されるコンピュータ演習室3は、他の用途では使用できない場所になるかとの質問があった。これに対し、物品管理などの観点もあり、使用ルールが決まるまでの当面の間は、クロスラーニング・ラボの目的のみでの使用としたいと考えている旨の回答があった。

(2) 第3回令和8年度サバティカル研修者選考委員会結果について

高橋教育支援本部長から資料に基づき説明があった。

(3) 令和7年度「学長と語ろう！」（学長と学生との座談会）の実施について

高嶋学生支援本部長から、資料に基づき説明があった。

鈴木学長から、最終的にはこの教育研究会議に学生代表者が参加するなど、学生が多様性を持って大学に関わる等の仕組みを検討していく必要がある旨の意見があった。

(4) 令和7年度FD・SDセミナー「障がい等のある学生への合理的配慮と建設的対話」の開催について

高嶋学生支援本部長から、資料に基づき説明があった。

(5) 令和7年度岩手県立大学の就職内定状況（1月末現在）について

高嶋学生支援本部長から資料に基づき説明があった。

(6) 「象と花」プロジェクトに係る古本回収ボックスの設置について

亀田研究・地域連携本部長から資料に基づき説明があった。

報告事項（資料報告）

(1) 令和7年度全学FD・SDプログラム第2回高等教育セミナー開催結果について

(2) 令和6年度アセスメント結果報告書の公表について

(3) 令和7年度高大連携「ウインター・セッション」の実施結果について

(4) 令和8年度大学入学共通テスト実施結果について

(5) 大学院入学者選抜（第2次募集）出願状況について

- (6) 令和7年度研究室保管図書点検結果について
- (7) 第22回 INS いわてコーディネート研究会～インキュベーション&イノベーションセンター交流発表会～の開催結果について
- (8) 子ども起業体験ワークショップ in 岩手県立大学の開催について
- (9) 令和8年度学長メッセージの実施について

その他

なし。

以上